『孔子及び四聖配像』の来歴について

― 絵画はどのように琉球処分を乗り越えたか ―

①『孔子及び四聖配像』沖縄県立博物館・美術館蔵　②「首里/至聖廟/師範学校より仮遷座式」（那覇市歴史博物館提供）
③「那覇/孔子廟/大成殿」（那覇市歴史博物館提供）　④「首里城内/孔子廟」（那覇市歴史博物館提供）

2026.

11.14 (土)

入場無料

14:00～16:00
（開場 13:30）

『孔子及び四聖配像』――沖縄戦で失われたと信じられてきた名画が、2006年、戦禍を乗り越えて発見されました。本作は戦前、鎌倉芳太郎の調査により久米の孔子廟に所蔵されていたと考えられていました。しかし来歴の詳細な検討により、元来は首里の孔子廟に祀られた「聖影」であり、琉球の画家・毛長禧（佐渡山安健）による傑作であることが判明しました。

講座では、本作品の発見と、来歴解明のプロセスを紹介し、琉球絵画研究の世界へといざないます。

【キーワード】
#久米孔子廟 #首里孔子廟 #鎌倉芳太郎 #孔子像 #琉球絵画 #毛長禧 #佐渡山安健

※駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
※席数に限りがあり、ご入場いただけない場合がございます。
※会場内は空調の影響で寒くなる場合があります。

講　師　平川信幸（教育普及担当学芸員）

会　場　1階 博物館講座室（定員80席）

受　付　当日先着

お問合せ　098-941-8200

主　催　沖縄県立博物館・美術館

次回予告

2026. 12.12 (土) 14:00～16:00 (13:30開場)

「縄文時代に戦いはあったのか？～人骨の傷痕から探る～」

講　師　平野力也（人類担当学芸員）